

1 解答例

1. 5	2. 4	3. 3/4	4. 5	5. 4
6. 2	7. 努力しない	8. 努力しない	9. 努力しない	10. 努力する

解答例に至る経緯

A.1.

需要曲線より $P=5$ の時、 $D=2$ 、 $P=6$ の時、 $D=0$ である。したがって価格の変化率 $= (6-5)/5$ 、
 需要の変化率 $= (0-2)/2$ である。よって
 需要の価格弾力性の絶対値 $= -\text{需要の変化率}/\text{価格の変化率} = 1/0.2 = 5$
 である。

A.2.

市場均衡において $D=S$ が成立する。したがって需要曲線と供給曲線より、 $12-2p=p$ となり、これを p
 について解くと $p=4$ を得る。したがって市場均衡価格は4である。

A.3.

市場均衡価格は4であるため、価格の上限3は有効である。したがって、価格3のもとで取引が行われ
 る。価格3のもとでは供給が3、需要が6となるため、取引量は3で行われる。取引量が3のもとの
 買い手にとっての価格は逆需要関数から $p=6-(1/2) \times D=6-3/2=9/2$ となる。したがって、死荷重は
 $\{(9/2)-3\} \times (4-3) \times (1/2) = (3/2) \times (1/2) = 3/4$ となる。

B.1.

固定費用は生産量が0の時の費用であるため、総費用関数に $x=0$ を代入すると $TC=5$ と求まる。

B.2.

限界費用曲線 MC は総費用関数を生産量で微分することで得られる。したがって、
 $MC=4x+3$
 である。したがって、 x の係数は4である。

C.1.

太郎が努力した場合、次郎が努力すると次郎の利得は4、次郎が努力しないと次郎の利得は5である。し
 たがって、努力しない方が利得が高いため、次郎の最適な行動は「努力しない」である。

C.2.

お互いに努力しない場合の利得は2である。相手の戦略を所与とした場合、太郎は戦略を努力しないか
 ら努力するへ変更すると利得が1に下落するし、次郎も同様に戦略を努力しないから努力するへと変更
 すると利得が1に下落する。したがって、2人とも相手の戦略を所与とした場合に最適な戦略をとって
 いる。したがって、お互いに努力しないのがナッシュ均衡である。なお、このゲームではナッシュ均衡は
 1つしか存在しない。

C.3.

太郎と次郎が共に努力しない場合、互いの利得は2である。太郎と次郎が共に努力する場合、互いの利得
 は4である。共に努力しない場合から共に努力することに変更すると、互いの利得を増加させているた
 め、この変更はパレート改善である。パレート改善できる場合、パレート最適ではないため、太郎と次郎
 が共に努力しない場合はパレート最適ではない。一方で、互いに努力する場合、どちらかの利得を下落さ
 せることなく、どちらかの利得を上昇させることができないため、太郎と次郎が互いに努力するのは、パ
 レート最適である。

2	解答例			
1. 7,000	2. 1,000	3. 8,000	4. 10 (%)	5. 上昇
6. 減少	7. 変化しない	8. 上昇	9. 上昇	10. 変化しない

解答例に至る経緯

A.

民間貯蓄は、可処分所得 ($Y - T$) から消費 C を差し引いた値であるため、 $20,000 - 3,000 - 10,000 = 7,000$ である。政府貯蓄は、税収 T から政府支出 G を差し引いた値であるため、 $3,000 - 2,000 = 1,000$ である。国民貯蓄は、民間貯蓄と政府貯蓄の和であり、 $7,000 + 1,000 = 8,000$ である ($Y - C - G = 20,000 - 10,000 - 2,000 = 8,000$ としても同じ値が得られる)。

閉鎖経済では、財市場の均衡において国民貯蓄と投資が一致する。すなわち、 $8,000 = 9,000 - 100r$ が成立する。これを r について解くと、 $100r = 1,000$ となり、 $r = 10$ を得る。したがって、均衡実質利子率は $10 (\%)$ である。

次に、 Y 、 C 、 T および投資関数を一定としたまま政府支出 G が増大すると、国民貯蓄 ($Y - C - G$) は減少する。貸付資金市場では資金供給にあたる貯蓄が減少するため、投資需要曲線との交点で決まる均衡実質利子率は上昇する。また、新しい均衡点では国民貯蓄と投資が再び一致するため、設備投資は減少した国民貯蓄と等しい水準まで減少する。以上より、5 は「上昇」、6 は「減少」である。

B.

CPI (消費者物価指数) は、典型的な消費者が購入する財・サービスのバスケットの価格を測る指標であり、輸入品も含まれる一方、消費者が購入しない財は含まれない。これに対し GDP デフレーターは、国内で生産された財・サービスの価格を測る指標であり、政府が購入する財なども含まれる一方、輸入品は含まれない。

出来事 1 (日本製潜水艦の価格上昇)：潜水艦は消費者が購入する財ではないため、CPI のバスケットには含まれず、CPI は変化しない。一方、潜水艦は国内で生産される財であるため、GDP デフレーターは上昇する。したがって、7 は「変化しない」、8 は「上昇する」である。

出来事 2 (イタリア産ワインの価格上昇)：イタリア産ワインは日本の消費者が購入する輸入消費財であるため、CPI のバスケットに含まれ、CPI は上昇する。一方、イタリア産ワインは国内で生産された財ではないため、GDP デフレーターは変化しない。したがって、9 は「上昇する」、10 は「変化しない」である。

3

論述問題（1）

出題の意図

本問題は、身近な課題（清掃ボランティアの参加者増員）を題材とし、ミクロ経済学の基礎概念を用いて人々の行動変容を促す施策を立案・説明する能力を問うものである。具体的には、学生（各経済主体）が行動を決定する際の「インセンティブ」と「機会費用」を適切に捉えられているか、また、責任者（あなた）が直面する「資源制約（予算や清掃道具）」を遵守した上で、目標達成に向けた効果的な提案を論理的に構築できるかを評価する。

採点のポイント（各項目5点・計20点）

① インセンティブの理解と提示（5点）

経済学における「インセンティブ」の用語を正しく理解し、学生がボランティアに参加する動機として妥当な事象を明記できているか。（内的動機でも外的動機でもどちらでも可）

② 機会費用の理解と提示（5点）

「機会費用」の用語を正しく理解し、休日の午前中にボランティアに参加することによって学生が手放す価値（余暇、睡眠、アルバイト等の他の選択肢）を妥当な形で明記できているか。

③ 提案の有効性と論理性（5点）

提案する施策が、上記のインセンティブを強化する、あるいは機会費用を低減（補償）する役割を担っているか。かつ、その施策が「参加者を30名増加させる（倍増させる）」という目標に対して、いかに効果的であるかが説得力を持って論理的に記述されているか。

④ 予算制約と実現可能性（5点）

提案する施策が、与えられた「1万円」という予算の範囲内で実現可能である理由と根拠について、論理的に記述できているか。（例えば、目標とする参加者数が60名であることから、一人ひとりに飲み物等を配るのであれば、一人当たり費用が約150円程度に収まることを記述する。）

論述問題（2）

出題の意図

本問題は、現実のマクロ経済政策である財政拡張政策について、総需要・総供給（AD-AS）モデルという基礎的な分析枠組みを用いて、自らの立場を論理的に擁護する能力を問うものである。とりわけ、2013年（消費者物価上昇率がマイナスまたはゼロ近傍であった需要不足の局面）と2024-2025年（2%前後のインフレが続く局面）という物価環境の違いを踏まえ、同じ財政拡張政策であっても、経済の状況に応じて産出量と物価に与える効果が異なりうることを理解しているかを評価する。なお、問題文にあるとおり、賛成・反対のいずれの立場を選択したかは採点に一切影響せず、AD-ASモデルに即した論理の一貫性を重視する。

採点のポイント（各項目5点・計20点）

① 立場の明確化（5点）

賛成・反対のいずれかの立場を明確に示しているか。（どちらの立場を選んでも採点には影響しない。）

② AD-AS モデル・フィリップス曲線の運用 (5 点)

財政拡張政策が総需要曲線 (AD 曲線) を右方向にシフトさせることを正しく示し、総供給曲線 (AS 曲線) の形状と関連づけて、産出量と物価への影響を分析できているか。問題文では AD-AS モデルに触れることが求められているが、インフレ率と産出量 (失業) のトレードオフを表すフィリップス曲線を補完的に用いて論じている答案も、同等に評価する。

③ 物価環境の把握と、それを踏まえた論理 (5 点)

まず、2013 年 (消費者物価上昇率がマイナスまたはゼロ近傍の需要不足局面) と 2024-2025 年 (2%前後のインフレ局面) という物価環境の違いを正しく把握できているか。そのうえで、財政拡張による AD 曲線の右シフトの効果が産出量と物価のどちらに多く向かうかは、その時点の総供給 (AS) 側の状況、言い換えればフィリップス曲線の傾きによって決まることを論じられているか。すなわち、需要不足でスラックが大きい局面では AS 曲線・フィリップス曲線が緩やかで、効果は主に産出量 (雇用) の増加として現れる一方、需給ギャップがほぼ解消した局面ではこれらの曲線が急になり、効果は物価上昇に回りやすい。こうした物価環境の違いを、自らの立場の根拠として論理的に結び付けられているか。なお、近年の物価上昇には円安や輸入物価などのコストプッシュ要因 (AS 曲線の左シフト・フィリップス曲線の上方シフト) の寄与が大きい点を踏まえ、需要側インフレと供給側インフレを区別して論じた答案も高く評価する。

④ 結論の一貫性と説得力 (5 点)

分析の内容と結論が首尾一貫しており、選択した立場が自らの論証から無理なく導かれているか。(立場の賛否自体は採点に影響しない。)

2026年度 創価大学 転学部転学科・転籍・編入学試験問題〈文学部 人間学科〉

問題：文学部人間学科のメジャーの中で、自分が学びたいと思うメジャーや学問分野を書き、文学部の3指針「生命の尊厳の探究者たれ」「人類を結ぶ世界市民たれ」「人間主義の勝利の指導者たれ」のどれかを取り上げて、自分が学びたいこととの関連を論じなさい。

なお、現代の社会情勢や科学技術について、短くてもかまいませんので、必ず触れてください。

-----解答例および出題の意図-----

解答例：解答例については、今後の試験内容と関わるので省略する。

出題の意図：文学部「転学部転学科・転籍・編入学」（以下「転学部等」と略す）試験における出題の意図

出題意図の第1は、一定程度の長さを持つ文章を書く素養を計ることである。文学部は卒業論文が必修のカリキュラムとなっている。そのためには、ある程度長い文章を書く能力が必要である。したがって、その素養を計る必要があると考えて小論文形式の試験を採用している。

出題意図の第2は、文学部のメジャー理解を計ることである。多彩な学問領域のある文学部としては、転学部等の試験を経て文学部に入る学生として、どのメジャーを目指すかを、ある程度まで明確にしてあることが望ましいと考える。そこで「自分が学びたいと思うメジャーや学問分野」を書かせることとしている。文学部は、11メジャー1専修の学びを提供している（現カリキュラムでは、5コース1専修）。転学部等試験においては、3年次以降のメジャー登録を前提に、そこで「自分が学びたいと思うメジャーや学問分野」について、一定の知識や見通しがあるか確認する必要があると考えて出題している。なお、転学部等試験の受験段階では、明確なメジャーが決まっていなくともかまわないと考えるので、メジャーではなくおおよその「学問分野」という文言を添えている。

出題意図の第3は、文学部の理念・目標についての理解を計ることである。文学部は理念・目的として3つの指針を掲げている。その文学部の3指針を理解しているかは、転学部等試験においてぜひとも確認しておきたい事項である。また、単に指針を理解しているだけでなく、指針と自身の学びを関連付けて示すことを望んでいる。

なお、第2・第3の出題意図は、文学部の教育目標にある「知識と技能、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力」への資質を計ることを兼ねている。

出題意図の第4は、文学部の教育目標である「世界市民としての資質」を計るためである。そのため「現代の社会情勢や科学技術」について書くことを通して論ずることを求めている。

今年度は、以上の4つの出題意図を通して、文学部の学生としての資質を計ることを意図して出題した。

児童教育学科の教育学の問題

設問1 以下の設問から2題選んで答えなさい。

(1) 18世紀後半から19世紀にかけて A.ベルや J.ランカスターによって開発された教育方法の名称は何ですか。また、この教育方法が、当時イギリスにおける教育の普及に果たした役割について説明しなさい。

(2) 「メリトクラシー」と「ペアレントクラシー」について、それぞれが子どもの教育機会と社会的地位の獲得をどのように捉えているのかを説明しなさい。

(3) 2007年に学校教育法改正により、それまでの特殊教育に代わり特別支援教育が開始された。その後、2012年に文部科学省中央教育審議会報告ではインクルーシブ教育が提起された。特別支援教育とインクルーシブ教育のそれぞれについて説明しなさい。

(4) 「教師専門職論(専門職的教師論)」とは、どのようなものであるかを説明しなさい。

【出題の意図】

本科目は、教育学の主要領域(教育史・教育社会学・特別支援教育・教職論)にわたる基礎的概念および制度の理解を問うものである。各概念・制度を正確に把握しているかに加え、その歴史的・社会的背景や相互の関係を踏まえて説明できる基礎的な理解力・説明力をみることをねらいとする。

【採点のポイント】

各設問について、以下の中核的内容が正確に押さえられているかを評価する。

1.(教育史)ベル・ランカスター法(助教法)の仕組みと、初等教育の普及に果たした役割。

2.(教育社会学)メリトクラシーとペアレントクラシーの配分原理の違い。

3.(特別支援教育)障害のある子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育と、共に学ぶことを目指すインクルーシブ教育の理念。

4.(教職論)教職を専門職として捉える教師専門職論の基本的考え方。

いずれも、用語の暗記にとどまらず、要点を整理して説明できているかを評価する。

児童教育学科の心理学の問題

設問2 以下の設問から2題選んで答えなさい。

- (1) 自我同一性の概念について、青年期の発達をふまえて説明しなさい。
- (2) レスポンデント条件づけ(古典的条件づけ)、オペラント条件付けの違いについて説明しなさい。
- (3) 質問紙調査のメリット・デメリットについて説明しなさい。
- (4) 行動療法について、行動主義の理論を用いて説明しなさい。

●出題の意図と採点のポイント

【出題の意図】

本問題は、心理学の基礎的な理論および研究方法に関する理解を確認するとともに、それらを適切な用語を用いて論理的に説明する能力を評価することを目的としている。

具体的には、発達心理学における自我同一性、学習心理学におけるレスポンデント条件づけとオペラント条件づけ、心理学研究方法としての質問紙調査、ならびに行動療法の理論的背景についての理解を問うた。また、単なる知識の暗記ではなく、各概念の特徴や相違点を整理し、自らの言葉で分かりやすく説明する論理的構成力および表現力についても評価した。

【採点のポイント】

- ・心理学の基本概念や専門用語を正確に理解しているか。
- ・各理論や研究方法の特徴について適切に説明できているか。
- ・比較を求める設問では、共通点や相違点を明確に整理して説明できているか。
- ・行動療法について、行動主義の理論との関連を踏まえて説明できているか。
- ・文章全体の論理性、一貫性および表現の明瞭さが確保されているか。

2026 年度 編入学・転学部転学科・転籍試験問題
理工学部 情報システム工学科

【出題意図】

1. 数列の極限

数列の極限の基本的な計算方法（最高次項による処理や有理化）を理解し、適切に適用できるかを確認する。

2. 微分

基本的な微分公式および積の微分法則・合成関数の微分を理解し、正しく計算できるかを確認する。

3. 定積分

不定積分の計算方法と定積分の基本定理を理解し、積分値を正確に求められるかを確認する。

1. 次の数列の極限值を求めよ。

(1)

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{7n - 4}{3n + 5}$$

(2)

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt{n} \left(\sqrt{5n + 8} - \sqrt{5n} \right)$$

【解答】

(1) 分子・分母の最高次の項 n で割る：

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{7n - 4}{3n + 5} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{7 - \frac{4}{n}}{3 + \frac{5}{n}}.$$

$n \rightarrow \infty$ のとき、 $\frac{4}{n} \rightarrow 0$ および $\frac{5}{n} \rightarrow 0$ なので：

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{7 - 0}{3 + 0} = \frac{7}{3}.$$

$$\therefore \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \frac{7}{3}.$$

(2) 平方根の差を有理化：

$$\sqrt{5n + 8} - \sqrt{5n} = \frac{(5n + 8) - 5n}{\sqrt{5n + 8} + \sqrt{5n}} = \frac{8}{\sqrt{5n + 8} + \sqrt{5n}}.$$

大きな n のとき、

$$\sqrt{5n + 8} + \sqrt{5n} \approx 2\sqrt{5n}.$$

したがって、

$$\sqrt{5n + 8} - \sqrt{5n} \approx \frac{4}{\sqrt{5n}}.$$

これを $b_n = \sqrt{n}(\sqrt{5n+8} - \sqrt{5n})$ に代入：

$$b_n \approx \sqrt{n} \cdot \frac{4}{\sqrt{5n}} = \frac{4}{\sqrt{5}}.$$

$$\therefore \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \frac{4}{\sqrt{5}}.$$

2. 次の関数を x で微分せよ。

(1) $x^6 - 2x^4 + 3x$

(2) $e^{2x} \log(x^3 + 2)$

【解答】

(1) 各項を微分する：

$$\frac{d}{dx}x^6 = 6x^5, \quad \frac{d}{dx}(-2x^4) = -8x^3, \quad \frac{d}{dx}(3x) = 3$$

よってまとめると：

$$g'(x) = 6x^5 - 8x^3 + 3$$

(2) 積の微分法則を使う：

$$\frac{d}{dx}[u \cdot v] = u'v + uv', \quad u = e^{2x}, \quad v = \log(x^3 + 2)$$

それぞれ微分する：

$$u' = 2e^{2x}, \quad v' = \frac{3x^2}{x^3 + 2}$$

よってまとめると：

$$g'(x) = 2e^{2x} \log(x^3 + 2) + \frac{3x^2 e^{2x}}{x^3 + 2}$$

3. 次の定積分の値を求めよ。

$$(1) \int_0^3 (x^2 - 2x + 1) dx$$

$$(2) \int_0^1 e^{2x} dx$$

【解答】

$$(1) \int_0^3 (x^2 - 2x + 1) dx$$

$$\int (x^2 - 2x + 1) dx = \frac{x^3}{3} - x^2 + x + C$$

$$\int_0^3 (x^2 - 2x + 1) dx = \left[\frac{x^3}{3} - x^2 + x \right]_0^3 = \left(\frac{27}{3} - 9 + 3 \right) - 0 = 3$$

$$(2) \int_0^1 e^{2x} dx$$

$$\int e^{2x} dx = \frac{1}{2} e^{2x} + C$$

$$\int_0^1 e^{2x} dx = \left[\frac{1}{2} e^{2x} \right]_0^1 = \frac{1}{2} e^2 - \frac{1}{2} e^0 = \frac{1}{2} (e^2 - 1)$$

したがって、

$(1) \ 3, \quad (2) \ \frac{1}{2}(e^2 - 1)$

出題のねらい

- ① 行列の演算規則を理解して、具体的に乗法を計算することができるかどうかを測る.
- ② 数と量の概念を理解して、量 = 数値 × 単位 にしたがって量の関係式を数の関係式に書き換えることができるかどうかを測る.
- ③ 行列式の定義を理解して、クラメールの方法で連立1次方程式の解を求めることができるかどうかを測る.

4.

(1)

$$\begin{aligned} AB &= \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & a \\ b & 1 \\ c & b \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2+b-c & 2a+1-b \\ 1+b-2c & a+1-2b \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{pmatrix} 2+b-c & 2a+1-b \\ 1+b-2c & a+1-2b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -4 \end{pmatrix}$$

のとき

$$\begin{cases} 2+b-c=3 \\ 1+b-2c=0 \end{cases}$$

と

$$\begin{cases} 2a+1-b=0 \\ a+1-2b=-4 \end{cases}$$

である.

$$\begin{cases} b-c=1 \\ b-2c=-1 \end{cases}$$

を解くと

$$\begin{cases} b=3 \\ c=2 \end{cases}$$

となる.

$$\begin{cases} 2a-b=-1 \\ a-2b=-5 \end{cases}$$

に $b=3$ を代入すると

$$a=1$$

を得る. したがって,

$$\begin{cases} a=1 \\ b=3 \\ c=2 \end{cases}$$

である.

5.

$$(1) \quad \begin{cases} 1 \text{ 人} \times x \text{ 円/人} + 1 \text{ 人} \times y \text{ 円/人} + 1 \text{ 人} \times z \text{ 円/人} = 2900 \text{ 円} \\ 3 \text{ 人} \times x \text{ 円/人} + 2 \text{ 人} \times y \text{ 円/人} + 0 \text{ 人} \times z \text{ 円/人} = 6300 \text{ 円} \\ 2 \text{ 人} \times x \text{ 円/人} + 0 \text{ 人} \times y \text{ 円/人} + 2 \text{ 人} \times z \text{ 円/人} = 4000 \text{ 円} \end{cases}$$

だから, x, y, z がみたす 3 元連立 1 次方程式は

$$\begin{cases} 1x + 1y + 1z = 2900 \\ 3x + 2y + 0z = 6300 \\ 2x + 0y + 2z = 4000 \end{cases}$$

である.

(2) クラメールの方法で, (1) の 3 元連立 1 次方程式の解は

$$x = \frac{\begin{vmatrix} 2900 & 1 & 1 \\ 6300 & 2 & 0 \\ 4000 & 0 & 2 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 0 \\ 2 & 0 & 2 \end{vmatrix}}, y = \frac{\begin{vmatrix} 1 & 2900 & 1 \\ 3 & 6300 & 0 \\ 2 & 4000 & 2 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 0 \\ 2 & 0 & 2 \end{vmatrix}}, z = \frac{\begin{vmatrix} 1 & 1 & 2900 \\ 3 & 2 & 6300 \\ 2 & 0 & 4000 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 0 \\ 2 & 0 & 2 \end{vmatrix}}$$

である.

$$\begin{aligned} \text{分母} &= \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 0 \\ 2 & 0 & 2 \end{vmatrix} \\ &= \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & -1 & -3 \\ 0 & -2 & 0 \end{vmatrix} \quad \blacktriangleleft \text{第 2 行} - \text{第 1 行} \times 3, \text{第 3 行} - \text{第 1 行} \times 2. \\ &= \begin{vmatrix} -1 & -3 \\ -2 & 0 \end{vmatrix} \quad \blacktriangleleft \text{列展開} \\ &= (-1) \times 0 - (-3) \times (-2) \\ &= -6. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} x \text{ の分子} &= \begin{vmatrix} 2900 & 1 & 1 \\ 6300 & 2 & 0 \\ 4000 & 0 & 2 \end{vmatrix} \\ &= 2900 \begin{vmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} - 6300 \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} + 4000 \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} \quad \blacktriangleleft \text{列展開} \\ &= 2900 \times 4 - 6300 \times 2 + 4000 \times (-2) \\ &= -9000. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} y \text{ の分子} &= \begin{vmatrix} 1 & 2900 & 1 \\ 3 & 6300 & 0 \\ 2 & 4000 & 2 \end{vmatrix} \\ &= \begin{vmatrix} 6300 & 0 \\ 4000 & 2 \end{vmatrix} - 2900 \begin{vmatrix} 3 & 0 \\ 2 & 2 \end{vmatrix} + \begin{vmatrix} 3 & 6300 \\ 2 & 4000 \end{vmatrix} \quad \blacktriangleleft \text{行展開} \\ &= 12600 - 2900 \times 6 + 3 \times 4000 - 6300 \times 2 \\ &= -5400. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
z \text{ の分子} &= \begin{vmatrix} 1 & 1 & 2900 \\ 3 & 2 & 6300 \\ 2 & 0 & 4000 \end{vmatrix} \\
&= \begin{vmatrix} 2 & 6300 \\ 0 & 4000 \end{vmatrix} - \begin{vmatrix} 3 & 6300 \\ 2 & 4000 \end{vmatrix} + 2900 \begin{vmatrix} 3 & 2 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} \quad \blacktriangleleft \text{行展開} \\
&= 8000 - (3 \times 4000 - 6300 \times 2) - 2900 \times 4 \\
&= -3000.
\end{aligned}$$

$$x = \frac{-9000}{-6} = 1500.$$

$$y = \frac{-5400}{-6} = 900.$$

$$z = \frac{-3000}{-6} = 500.$$

したがって,

$$x \text{ 円/人} = 1500 \text{ 円/人}, y \text{ 円/人} = 900 \text{ 円/人}, z \text{ 円/人} = 500 \text{ 円/人}$$

である.